



CONTENTS

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員動静
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議等の詳細
- 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ 改訂4版2018」のご案内
- 「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内
- 講師派遣のご案内
- 【予告】農薬科学研究奨励金のご案内
- 令和5・6年度日本農薬学会役員選挙について

令和3年度 第4回常任評議員会議事録

日 時：令和3年11月27日(土) 13:00～15:20

方 法：Web開催

出席者：出席者14名（第47回大会組織委員長1名を含む）、
欠席者2名

議事：

- I. 令和3年度第3回常任評議員会議事録を確認した。
また、メール審議3件（農薬科学研究奨励金資料の修正案、シンポジウム後援依頼2件）の議事録を確認した。
- II. 経過報告および議案
 1. 第47回大会準備状況報告
 - ・作成中の大会ウェブページの内容を確認した。
 - ・企業・団体セミナーおよび広告の実施方法について報告があった。
 - ・実施予定のシンポジウム3件について説明があった。
 2. 財務関係
 - ・会計報告
2021年度決算見込みおよび2022年収支決算書案について報告があった。
 - ・令和3年度学術小集会収支予算案については、追ってメール審議することとした。
 3. 編集委員会

・編集委員会活動報告

JPS誌への投稿状況およびインパクトファクター推移について説明があった。

4. 学術・技術支援委員会

・活動報告

令和3年11月25日にオンラインで実施された残留農薬分析セミナーについて概要が報告された。

「農薬について知ろう」ウェブサイトのリンク先点検を担当するキュレーターについて、推薦を募っているとの説明があった。

5. 将来計画委員会

令和3年11月20日に開催された委員会で、大会シンポジウム企画などについて議論したとの報告があった。

6. 学会賞受賞者選考委員会

・受賞者選考過程と結果について

令和3年9月22日に開催された賞選考委員会において受賞候補者を選考し、評議員の投票により決定されたことが報告された。

7. 終身会員推薦について

新たに10名の会員を終身会員に推薦することが報告された。

8. 農薬科学研究奨励金について

応募状況について報告があった。

9. 技術士育成推進委員会

技術士試験の日程、周知方法等について説明があった。

10. 昆虫科学連合、植物保護科学連合

・2024年に京都で開催予定の第27回国際昆虫学会議（International Congress of Entomology）を、昆虫科学連合を中心に企画準備している状況について説明があった。

・日本植物保護科学連合が12月4日に開催予定の公開シンポジウム「グリーンリカバリーへの植物保護科学の貢献」について説明があった。

11. 国際学会の渡航費補助について

新たな申請はなかったとの報告があった。

12. 公益財団法人農学会，一般社団法人日本農学会
日本農薬学会から日本農学会の日本農学賞への推薦について，学会賞受賞者選考委員会で承認され，推薦すること，今後の推薦方法について検討中であることが報告された。
13. 研究会の後援・協賛について
後援2件について報告があった。
14. 入退会の報告
令和3年8月16日～11月15日の期間における入退会の報告があり，正会員13名，学生会員4名，海外会員1名，および海外学生会員1名の入会が承認された。
15. その他
 - ・ニューズレターの電子化に関して，電子化した後も記事のレイアウトやPDF化の作業は引き続き国際文献社へ依頼することを確認した。
 - ・一般社団法人化の検討に関する状況について報告があった。

令和3年度 第5回常任評議員会議事録

日 時：令和4年2月5日(土) 13:10～16:10

方 法：Web開催

出席者：出席者13名（第47回大会組織委員長1名を含む），
欠席者3名

議事：

I. 令和3年度第4回常任評議員会議事録を確認した。

また，メール審議4件（和文誌への会員限定アクセス方法変更について，令和4年度学術小集会仮払い申請書および収支予算書の承認，第47回大会の完全オンライン化について，47回大会初日の開催方法について）の議事録を確認した。

II. 経過報告および議案

1. 第47回大会準備状況報告
 - ・大会初日も，対面とのハイブリッドではなくオンライン開催に変更するとの説明があった。
 - ・企業・団体セミナーの実施予定について報告があった。
 - ・3月6日午後に実施予定の常任評議員会，編集委員会，および評議員会のスケジュールを確認した。
 - ・総会のスケジュールおよび資料案を確認した。
2. 財務関係
 - ・会計報告
令和3年度収支計算書を確認した。
令和4年度収支予算（案）についての説明があった。
 - ・外部監査を受けたことの報告があった。
 - ・令和3年度学術小集会収支予算書について，メール審議により承認されたとの説明があった。
3. 編集委員会
 - ・JPS誌への投稿状況およびインパクトファクター推移

について説明があった。

- ・和雑誌・英文誌の表紙変更について，進捗の説明があった。

4. 学術・技術支援委員会 活動報告

- ・今後の残留分析セミナーの実施について検討しているとの報告があった。
- ・「農薬について知ろう」ウェブサイトへのアクセス情報について説明があった。
- ・講師派遣について，今後も会員への周知を図っていくことが確認された。
- ・「残留農薬知っておきたい問答あれこれ」の改訂第5版の作成について，引き続き検討しているとの報告があった。

5. 将来計画委員会

- ・第47回大会で実施予定のシンポジウムについて説明があった。

6. 農薬科学研究奨励金二次審査

一次審査の経過報告があり，二次審査方法について審議した。それに沿って審査し，交付を決定した。

7. 技術士育成推進委員会

- ・令和4年1月28日に実施された，5学会の担当者での会議について報告された。
- ・学会ウェブサイトの掲載内容を更新予定であるとの説明があった。

8. 昆虫科学連合，植物保護科学連合

日本植物保護科学連合が12月4日に開催した公開シンポジウム「グリーンリカバリーへの植物保護科学の貢献」について報告があった。

9. 公益財団法人農学会，一般社団法人日本農学会

日本農薬学会から日本農学会の日本農学賞への推薦について，選考会への準備状況が報告された。

10. 研究会の後援・協賛の状況について説明があった。

11. 入退会の報告

令和3年11月16日～令和4年1月30日の期間における入退会の報告があり，正会員12名，学生会員16名，および購読会員1団体の入会が承認された。

12. その他

- ・国際植物保護科学会 IAPPS 第11回運営委員会（オンライン開催）の報告があり，2024年にギリシャで開催予定の国際植物保護科学会議IPPC2024の準備状況について説明された。
- ・2023年にインドで15th IUPAC International Congress of Crop Protection Chemistry (ICCP) が開催予定であるとの説明があった。
- ・会員数を増やすための今後の取り組みについて議論した。

- ・2025年の学会50周年に向けた提案があった。

令和3年度 第6回常任評議員会議事録

日 時：令和4年3月6日(日) 13:00～14:20

方 法：Web開催

出席者：出席者16名（第47回大会組織委員長1名を含む）

議事：

- I. 令和3年度第5回常任評議員会議事録を確認した。
また、メール審議を行った1件（和文誌担当の編集委員の件）について確認した。

II. 経過報告および議案

1. 第47回大会準備状況について
 - ・3月7日から開催予定の大会について、準備状況の説明があった。
 - ・第48回評議員会の資料及び進行について説明があった。
 - ・第47回通常総会資料について説明があり、進行について確認した。
2. 財務関係
 - ・会計報告
令和4年収支予算（案）についての説明があった。
 - ・内部監査を実施し、新型コロナウイルス対応などについて指摘があったことについて報告があった。
3. 編集委員会
 - ・第47回編集委員会の開催に先立ち、資料の説明があった。
 - ・JPS誌への投稿状況およびインパクトファクター推移について説明があった。
 - ・和雑誌・英文誌の表紙が変更されたことについて説明があった。
 - ・和文誌編集担当の編集委員の就任について報告された。
 - ・非会員の投稿料の値上げに関する投稿規定の改定について承認された。
4. 農業科学研究奨励金
令和3年度の奨励金のうち交付開始を延期した1件について、評議員会および総会で経緯を報告するとの説明があった。
5. 将来計画委員会
第47回大会で実施予定のシンポジウムについて説明があった。
6. 2021-2022年度専門委員会委員長および委員について説明があり、学会退会者は委員も退任することが確認された。
7. 2021-2022年度学術小集会および委員について説明があり、学会退会者は委員も退任することが確認された。
8. 公益財団法人農学会、一般社団法人日本農学会

日本農薬学会から日本農学会の日本農学賞への推薦について、選考結果について報告された

9. その他

- ・「植物医科学」（難波先生執筆）の書評掲載依頼について説明があった。
- ・会員数を増やすための今後の取り組みについて議論した。
- ・学会誌の最新号（47巻1号）の郵送が遅れた件について報告された。
- ・大会運営の次年度への引き継ぎについて説明があった。

日本農薬学会第48回評議員会議事録

日 時：令和4年3月6日(日) 16:30～17:50

方 法：オンライン

出席者：塩月会長、松田副会長、橋本副会長、三谷副会長、三富監事、評議員63名、委任状17通、名誉会員4名、顧問2名、第47回大会組織委員長、第48回大会組織委員長

評議員会成立の確認

出席並びに委任状を提出した評議員（80名）が定足数（34名、評議員総数101名の1/3以上）に達していることを確認したのちに、会則第29条に則り塩月会長を議長として議事を進行した。

議事

1. 令和3年度会務報告

第47回通常総会資料に基づき、総務・編集・渉外・学会賞選考の各項目について委員長または担当常任評議員が報告を行い、質疑を受けたのち、承認された。

2. 令和3年度会計報告

第47回通常総会資料に基づき、収支決算について三谷副会長が報告を行ったのち、三富監事から、学会並びに学術小集会の活動が適正であり、収支決算の内容が的確であったとの業務・会計監査結果が報告された。以上の報告について質疑を受けたのち、承認された。

3. 令和4年度事業計画

事業計画案および収支予算案について担当常任評議員が説明を行い、質疑を受けたのち、原案通り承認された。

4. 終身会員の承認

終身会員として有田浩之氏、内田又左衛門氏、利部伸三氏、金子俊彦氏、斎藤 勲氏、高山千代蔵氏、

牧野孝宏氏が推薦され、承認された。

5. 投稿規定改定案の承認

論文掲載料変更に関する投稿規定改定案について説明があり、原案通り承認された。

6. 第48回大会について

第48回大会を令和5年3月上旬に東京農業大学（東京都世田谷区）において開催することが承認された。須恵次期大会委員長から挨拶があった。

7. その他

- 本年度、業績賞（研究）の受賞者がなかったことに対して質問があり、本年度は推薦がなかったためであると松田副会長より説明された。次年度は6月より推薦を受け付けるので、是非積極的に推薦をしてほしいとの説明があった。
- 新設される和文誌の「副編集長」という用語について質問があり、正しくは「和文誌編集担当の編集委員」であると塩月会長より回答があった。
- 学会誌への投稿状況について非会員からの投稿件数について質問があり、投稿件数としては全体の約2～3割であるとの回答があった。

第47回通常総会議事録

日 時：令和4年3月7日(月) 9:30～10:40

方 法：オンライン

会則24条に則り、塩月会長を議長として議事を進行した。
議事：

1. 令和3年度事業報告および決算報告

総務・編集・渉外・学会賞選考の各項目、投稿規定の改定について各担当者が報告を行った。次いで、収支決算について会計担当者が報告を行ったのち、三富監事から学会並びに学術小集会の活動が適正であり、収支決算の内容が的確であったとの業務・会計監査結果が報告され、承認された。

2. 終身会員の推薦

第48回評議員会において終身会員7名が承認された旨報告があった。

3. 令和4年度事業計画および収支予算

事業計画案および予算案について各担当者が説明を行い、質疑を受けたのち、原案の通り承認された。

4. 第48回大会

第48回大会を令和5年3月上旬に東京農業大学（東京都世田谷区）において開催することが第48回評議員会で承認されたことが報告された。

5. その他

- 講師派遣事業の現状について質問があった。橋本副会長より、昨年はコロナ禍のため講師派遣の依頼が少な

かったが、今後は広げていきたいとの説明があった。講師派遣に関する具体的な内容を例示することにより、応募しやすくなるのではないかの提案があった。

- 和文誌編集担当の編集委員を設定した経緯について質問があった。高木編集委員長より、今までは編集委員長が英文誌と和文誌の両方を取りまとめていたため負担が大きかったこと、今後は編集委員長が英文誌の編集に集中することによりImpact Factorの上昇と学会誌のさらなる国際化を目指したいということが説明された。
- コロナ禍で学会活動が孤立化していることが懸念されるが、海外との交流を活発化できないかという意見があり、学会誌に英文の総説執筆を招待すること等が提案された。また、開催予定の国際会議の案内を積極的に行い、会員の国際会議での発表をサポートしていくとの説明があった。
- 学会ウェブサイト掲載の「農薬について知ろう」、「残留農薬分析 知っておきたい問答あれこれ」等のコンテンツについて紹介された。
- 2023年にインドで開催予定の15th IUPAC International Congress of Crop Protection Chemistry (ICCP)C) について説明があった。

資料

I 会務報告

1. 総務関係報告

1) 会員異動（令和3.1.1～令和3.12.31）

	令和2年 12月31日 現在	令和3年12月31日現在			増 減 (△減)
		国 内	国 外	計	
名誉会員	20	20	1	21	1
終身会員	54	54	0	54	0
正 会 員	926	886	11	897	△29 ^a
学生会員	42	43	1	44	2 ^b
維持会員 (口数)	35 (69口)	35 (69口)	0	35 (69口)	0 (0口)
団体会員	75	72	0	72	△3
購読会員	16	4	12	16	0

^a入会者：51名、退会者：23名、会費未納者：57名

^b入会者：14名、退会者：6名、会費未納者：6名

2) 会誌の発行

発行および頒布部数（令和3.1.1～令和3.12.31）

誌-巻-号	農薬誌-46-1	JPS-46-1, 2	農薬誌-46-2	JPS-46-3, 4
発行部数	1270	1270	1270	1270
会員頒布	1127	1127	1127	1127
一般購読	16	16	16	16
寄 贈	22	22	22	22
広告・PR	10	10	10	10
事務用	2	2	2	2
保存用	5	5	5	5
計	1182	1182	1182	1182
残存部数	88	88	88	88

3) 日本農薬学会第46回大会

- (1) 第46回大会（R3.3.8～R3.3.10）：第46回大会はオンデマンド形式（ライブ配信とオンデマンド配信）で東京農工大学府中キャンパスを大会運営本部として開催された。
- (2) 第46回通常総会（R3.3.8）：東京農工大学講堂における対面会議とオンライン配信のハイブリッド形式で開催され、令和2年度会務報告、会計報告、会計監査報告、令和3・4年度日本農薬学会役員選挙結果と会長指名役員の報告、第47回評議員会における終身会員および顧問の承認と日本農薬学会大会第47回大会（令和4年、岡山市、岡山大学）の開催の承認の報告が行われ、令和2年度事業報告および決算、令和3年度事業計画および収支予算（案）、名誉会員、会則第8条の改定（正会員の会費の値上げと団体会員・購読会員の会費の値下げ）が承認された。

4) 役員会の開催

- (1) 第48回評議員会（R4.3.6）：令和3年度会務報告、会計報告が行われ、令和4年度事業計画および収支予算（案）が承認され、日本農薬学会大会第48回大会（令和5年、東京農業大）の開催が承認され、終身会員が承認された。
- (2) 常任評議員会：5回（R3.4.15, 7.7, 9.4, 11.27, R4.2.5）オンライン、1回（R4.3.6）現地とオンラインで開催。

5) 専門委員会など

- (1) 第48回編集委員会：R4.3.6に開催。学会誌への投稿状況、JPSのインパクトファクターの推移、学会誌表紙の刷新を報告。来年（R5）から非会員の投稿料の値上げ及びReview論文の投稿促進についての検討。
- (2) 常任編集委員会：R3.6.5（オンライン）、R3.7.31（オンライン）、R3.10.30（ハイブリッド）、R4.1.8（対面）に開催。和文誌、英文誌の掲載内容、IFの向上、論

文賞の推薦、投稿料の値上げ（5万→10万円）学会誌の表紙の刷新、和文誌担当専任（有給）の副編集員長ポストの新設について検討。

- (3) 日本農薬学会賞受賞者選考委員会：R3.5.15, 9.25にオンラインで開催。日本農薬学会賞を選出し、日本農学賞の候補を検討。メール会議で日本農学進歩賞の候補を検討。
- (4) 財務委員会
 1. R3.6.17, 7.11, 8.31, 11.26にメール会議を開催。国際会議の渡航費補助申請の審査、令和3年度予算進捗の確認、令和3年度決算・令和4年度予算の検討と提案。
 2. 学術小集会活動経費補助申請の検討。
 3. 学会の継続的適正運営に関わる経費面のシミュレーションの実施。
 4. 外部監査（R3.8.3, R4.2.1）の実施に対応。
- (5) 第47回大会組織委員会：R3.3.30, 5.21, 6.21, 6.29, 7.12, 10.19, 11.26, R4.1.28に開催。
- (6) 将来計画委員会：R3.7.10, 11.20にオンラインで実施。みどりの食料システム戦略への対応を念頭に、学会の一般社団法人化や新規小集会の設置や従来の小集会のあり方について検討。47回大会でシンポジウムを企画。学会誌については、和文誌担当の副委員長の設置や国際化について検討。会員数の増加や次世代の育成を目指し、情報の場の設置や、試験場職員が参加しやすい講習会の開催について検討。
- (7) 学術・技術支援委員会：R3.6.12, 12.18に開催。メール会議数回。「農薬について知ろう」Webサイトの運営・保守管理・広報・利用状況分析、残留農薬分析セミナー・講師派遣事業、学会ホームページ運営等の活動方針について検討。
- (8) 農薬科学研究奨励金交付者審査会議：一次審査（R3.12.13～R4.1.17メール会議）、二次審査（R4.2.5）。
- (9) 学術小集会委員長と常任評議員との意見交換：R3.9.4に開催。活動報告・予定、会員増に向けた取り組み等について意見交換。
- (10) 三学会長懇談会：R3.11.22に開催。R4年度の（一社）日本植物防疫協会への業務委託契約の確認と、各学会の大会の開催方法について報告。日本農学賞候補者の推薦方法について意見交換。

6) 技術士育成推進委員会（5学会）

令和2年度技術士二次試験（農業部門・植物保護）の合格者は6名であり、合格者総数が148名になったとの報告があった。

2. 編集関係報告

1) 「日本農薬学会誌」掲載原稿数および頁数

巻 号	掲 載 原 稿 数									頁 数
	投稿論文	解説	受賞論文	実験 技術講座	ミニ レビュー	シンポジア	読み物 シリーズ	ショート レビュー	その他	計
46-1	1					1	1	4	3 ^a	10
46-2	4		7		13	1	1	4	2 ^b	32
合 計	5		7		13	2	2	8	5	42
										188 (+36) ^c

a: 特別寄稿1編, 談話室2編.

b: 追悼1編, 書評1編.

c: 大会案内 (21頁) 会則等を掲載 (15頁).

2) 「Journal of Pesticide Science」掲載原稿数および頁数

巻 号	掲 載 原 稿 数								頁 数
	総説	報文	短報	速報	技術資料	受賞論文	その他	計	
46-1	5	8	1				3 ^a	17	124
46-2	1	10	4					15	124 (+6) ^b
46-3		3	2			3		8	56
46-4	1	4	1		1	3	3 ^c	13	106 (+6) ^d
合 計	7	25	8		1	6	6	53	410 (+12)

a: Editorial, Preface, Commentary.

b: Instructions for authors.

c: Contents of Volume, Keyword Index, Author Index.

d: Instructions for authors.

3) 論文賞

候補1件を, 学会賞受賞者選考委員会に推薦した.

4) その他

- (1) JPS Vol. 47, No. 1 (2022) より冊子体を廃止することを常任評議員会に提案し承認され, 評議員会にて関連する編集規定の改定が承認された. 農薬誌は引き続き冊子体を刊行.
- (2) 受付論文数 (2021年): 和文5編, 英文85編 (掲載否42編)
- (3) 学会誌インパクトファクター (2020年): 1.519 (2019年: 1.101)
- (4) 電子ジャーナル掲載論文へのアクセス状況 (2021年): 月平均約11111件のダウンロード, 被引用件数1976件/年 (2020年: 11286件, 被引用件数: 1529/年)
- (5) 和文誌及びJPS Vol.47, No.1 (2021) から学会誌 (冊子体, Web) の表紙をリニューアル.

3. 渉外・企画関係報告

1) セミナーの開催

- (1) 残留農薬分析セミナー: 新型コロナウイルス感染症の状況を考慮してオンライン形式で開催した. (R3.11.25)

2) 農薬科学研究奨励金

農薬科学研究に対する研究奨励金を令和3年度は以下の

2件の研究に対して交付した.

- (1) 草島 美幸 氏 (東京大学): 植物免疫抑制剤NAS1が植物のストレス耐性や生育に与える影響の解析
- (2) 高木 和広 氏 (農研機構): 結晶スポンジ法による農薬等分解代謝産物の迅速構造決定

3) 学術小集会

- (1) 農薬残留分析研究会 (第44回): ハイブリッド開催 (拠点: フェニックス・プラザ 小ホール, 福井県福井市). 「農薬残留分析に係る最近の話題」をテーマとしてシンポジウム講演4題, 特別講演1題, ポスター発表12題, 企業セミナー「高極性農薬の測定に有効な手法等について」6題の発表が行われた. 参加者は177名であった. (R3.11.17~18)
- (2) 農薬製剤・施用法研究会 (第40回): 海外からの参加者も含めて275名が集い, 特別講演 (2題), 第40回記念講演 (1題), 技術研究発表 (7題), フォーラム (1題, ただし講演要旨での報告のみ) が行われた. オンライン開催であったが, 活発な議論が交わされ大盛況であった. (R3.10.15)
- (3) 農薬環境科学研究会 (第38回): R3.10.28~29にアリソンホテル神戸 (神戸市中央区) において, 「植物による農薬の吸収・移行・代謝」をテーマとしてハイブリッド形式で開催した.
- (4) 農薬生物活性研究会: 第38回農薬生物活性研究会シ

ンポジウムはオンラインで開催した。(R3.4.23)

- (5) 農薬デザイン研究会(第35回): オンライン開催。「新技術が拓く次世代の農薬デザイン」をテーマとして招待講演4題の発表が行われた。例年実施されているポスター発表は見送られた。参加者は171名であった。(R3.11.12)
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会(第28回): オンライン開催。『「みどりの食料システム戦略」化学農薬の低減と農業生産について考える』をテーマとして4題の講演が行われた。参加者は112名であった。(R3.12.3)
- (7) 農薬バイオサイエンス研究会(第19回): 東京農工大学府中キャンパス(東京都府中市)において、第46回大会との共催で「生物と化学のはざままで」をテーマとして6題の講演がオンデマンド配信とZoomによるライブでの質疑応答で行われた。参加者は約80名だった。(R3.3.10)(第20回): 植物化学研究会との共催で、「植物生理現象の解明と化学制御」というテーマで5題の講演がZoomによるオンラインで行われた。参加者は約80名だった。(R3.11.19)

4) 学術小集会以外の研究会等

- (1) 2021年度日本農学会シンポジウム: オンライン開催(R3.10.2)

5) 国際会議等派遣研究者への渡航費補助なし。

6) その他

4. 日本農薬学会賞受賞者選考委員会報告

1) 奨励賞, 業績賞(研究, 技術)

評議員ならびに学術小集会委員長より推薦された奨励賞2課題, 業績賞(技術)1課題について慎重公正なる選考を行った結果, 次の3課題を各賞の候補と決定した。

【奨励賞】

近藤 圭 氏(一般財団法人残留農薬研究所)

「水田環境中農薬動態解析精密化のための数理モデリングおよびその逆解析手法に関する研究」

並木 小百合 氏(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・農業環境研究部門)

「農薬の植物根から茎葉部への吸収・移行性に関する研究」

【業績賞(技術)】

永松 敦 氏, 上田 憲 氏, 玉井 龍二 氏, 谷真樹 氏, 山本 峻資 氏(クミアイ化学工業)

「水稻用除草剤フェンキノトリオンの開発」

2) 論文賞

編集委員会より推薦された論文について慎重公正なる審査を行い, 候補を決定した。

「Non-steroidal inhibitors of *Drosophila melanogaster* steroidogenic glutathione S-transferase Noppera-bo」

Kotaro Koiwai, Kana Morohashi, Kazue Inaba, Kana Ebihara, Hirotatsu Kojima, Takayoshi Okabe, Ryunosuke Yoshino, Takatsugu Hirokawa, Taiki Nampo, Yuuta Fujikawa, Hideshi Inoue, Fumiaki Yumoto, Toshiya Senda, Ryusuke Niwa (Structural Biology Research Center, Photon Factory, Institute of Materials Structure Science, High Energy Accelerator Research Organization, 1-1 Oho, Tsukuba, Ibaraki 305-0801, Japan.), Vol. 46, No. 1, pp.75-87 (2021)

5. 令和4年度日本農薬学会奨励賞, 業績賞, 論文賞の決定

学会賞受賞者選考委員会で選考された日本農薬学会奨励賞, 業績賞, 論文賞各候補について, 評議員の投票により授賞が決定した。

6. 終身会員の承認

1) 終身会員の承認

会則第7条2項により, 有田 浩之 氏, 内田 又左衛門氏, 利部 伸三 氏, 金子 俊彦 氏, 斎藤 勲 氏, 高山 千代蔵 氏, 牧野 孝宏 氏 氏を終身会員に推薦し, 評議員会において承認された。

7. その他

1) 投稿規定の改定

改定前	改定後
(令和3年3月8日改定) 投稿規定 (3) 著者は, 掲載された論文1編につき, 掲載料として50,000円を支払うものとする。ただし, 筆頭著者(First author)若しくは責任著者(Corresponding author)が会員の場合, 又は編集委員長が執筆依頼した非会員著者に対しては, これを無料とする。	(令和4年3月6日改定) 投稿規定 (3) 著者は, 掲載された論文1編につき, 掲載料として100,000円を支払うものとする。ただし, 筆頭著者(First author)若しくは責任著者(Corresponding author)が会員の場合, 又は編集委員長が執筆依頼した非会員著者に対しては, これを無料とする。

II. 会計報告

収支計算書

令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

日本農薬学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会 費 収 入	15,573,000	15,339,000	234,000
正 会 員 会 費 収 入	7,544,000	7,408,000	136,000
学 生 会 員 会 費 収 入	112,000	108,000	4,000
海 外 会 員 会 費 収 入	45,000	57,000	△ 12,000
団 体 会 員 会 費 収 入	770,000	720,000	50,000
購 読 会 員 会 費 収 入	202,000	146,000	56,000
維 持 会 員 会 費 収 入	6,900,000	6,900,000	0
会 報 刊 行 収 入	767,000	1,098,700	△ 331,700
頒 布 収 入	37,000	27,000	10,000
広 告 料 収 入	30,000	30,000	0
著 者 負 担 金 収 入	700,000	1,041,700	△ 341,700
事 業 収 入	20,270,000	8,803,694	11,466,306
大 会 運 営 収 入	4,350,000	4,025,000	325,000
学 術 小 集 会 運 営 収 入	15,100,000	4,315,694	10,784,306
学 術 ・ 技 術 支 援 委 員 会 収 入	820,000	463,000	357,000
雑 収 入	113,000	1,128,199	△ 1,015,199
預 金 利 息 収 入	3,000	690	2,310
雑 収 入	110,000	1,127,509	△ 1,017,509
事業活動収入計	36,723,000	26,369,593	10,353,407
2. 事業活動支出			
会 報 刊 行 費 支 出	8,470,000	9,275,392	△ 805,392
旅 費 交 通 費 支 出	300,000	152,600	147,400
通 信 運 搬 費 支 出	10,000	3,710	6,290
消 耗 品 費 支 出	10,000	0	10,000
印 刷 製 本 費 支 出	6,000,000	6,862,527	△ 862,527
編 集 費 支 出	1,500,000	1,365,871	134,129
学 会 誌 送 料 支 出	650,000	890,684	△ 240,684
総 会 ・ 大 会 費 支 出	2,680,000	1,128,734	1,551,266
学 術 ・ 技 術 支 援 委 員 会 支 出	960,000	180,734	779,266
学 術 小 集 会 費 支 出	14,900,000	3,371,104	11,528,896
H P 管 理 費 支 出	900,000	919,550	△ 19,550
学 会 賞 関 係 費 支 出	500,000	355,784	144,216
学 術 交 流 費 支 出	300,000	207,050	92,950
国 際 学 術 交 流 費 支 出	1,000,000	0	1,000,000
農 薬 科 学 研 究 奨 励 金 支 出	1,500,000	1,000,000	500,000
事 業 運 営 費 支 出	1,600,000	180,707	1,419,293
会 議 費 支 出	700,000	61,207	638,793
旅 費 交 通 費 支 出	900,000	119,500	780,500
管 理 費 支 出	4,150,000	3,926,629	223,371
通 信 運 搬 費 支 出	300,000	122,983	177,017
消 耗 品 費 支 出	150,000	26,829	123,171
事 務 管 理 費 支 出	3,190,000	3,190,000	0
印 刷 費 支 出	50,000	0	50,000
外 部 監 査 管 理 費	160,000	154,274	5,726
雑 支 出	300,000	432,543	△ 132,543
事業活動支出計	36,960,000	20,545,684	16,414,316
事業活動収支差額	△ 237,000	5,823,909	△ 6,060,909
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特 定 資 産 取 崩 収 入	500,000	0	500,000
寄 付 基 金 取 崩 収 入	500,000	0	500,000
投資活動収入計	500,000	0	500,000
2. 投資活動支出			
特 定 資 産 取 得 支 出	0	1,000,000	△ 1,000,000
寄 付 基 金 口 取 得 支 出	0	1,000,000	△ 1,000,000
固 定 資 産 取 得 支 出	0	935,000	△ 935,000
投資活動支出計	0	1,935,000	△ 1,935,000
投資活動収支差額	500,000	△ 1,935,000	2,435,000
III 財務活動収支の部			
財 務 活 動 収 入 計	0	0	0
財 務 活 動 支 出 計	0	0	0
財 務 活 動 収 支 差 額	0	0	0
当 期 収 支 差 額	263,000	3,888,909	△ 3,625,909
前 期 繰 越 収 支 差 額	4,434,203	5,210,286	△ 776,083
次 期 繰 越 収 支 差 額	4,697,203	9,099,195	△ 4,401,992

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金、仮払金、未払金、前受金、預り金及び預り金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	8,588,286	14,157,470
未 収 金	785,200	491,301
仮 払 金	850,500	14,294
合 計	10,223,986	14,663,065
未 払 金	162,700	132,000
前 受 金	4,850,000	5,217,000
預 り 金	1,000	24,870
仮 受 金	0	190,000
合 計	5,013,700	5,563,870
次期繰越収支差額	5,210,286	9,099,195

貸借対照表

令和 3年12月31日現在

日本農薬学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	14,157,470	8,588,286	5,569,184
未 収 金	491,301	785,200	△ 293,899
仮 払 金	14,294	850,500	△ 836,206
流動資産合計	14,663,065	10,223,986	4,439,079
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
積立調整基金	12,224,379	12,224,379	0
国際学術交流基金	14,385,042	14,385,042	0
寄付基金	7,264,117	6,264,117	1,000,000
特定資産合計	33,873,538	32,873,538	1,000,000
(3) その他固定資産			
ソフトウェア	1,019,517	303,050	716,467
その他固定資産合計	1,019,517	303,050	716,467
固定資産合計	34,893,055	33,176,588	1,716,467
資産合計	49,556,120	43,400,574	6,155,546
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	132,000	162,700	△ 30,700
前 受 金	5,217,000	4,850,000	367,000
預 り 金	24,870	0	24,870
仮 受 金	190,000	1,000	189,000
流動負債合計	5,563,870	5,013,700	550,170
負債合計	5,563,870	5,013,700	550,170
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	43,992,250	38,386,874	5,605,376
正味財産合計	43,992,250	38,386,874	5,605,376
負債及び正味財産合計	49,556,120	43,400,574	6,155,546

正味財産増減計算書

令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

日本農薬学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	15,339,000	15,634,000	△ 295,000
正会員会費	7,408,000	7,680,000	△ 272,000
学生会員会費	108,000	108,000	0
海外会員会費	57,000	45,000	12,000
団体会員会費	720,000	755,000	△ 35,000
講読会員会費	146,000	146,000	0
維持会員会費	6,900,000	6,900,000	0
会報刊行収益	1,098,700	992,100	106,600
頒布収益	27,000	40,000	△ 13,000
広告料収益	30,000	30,000	0
著者負担金益	1,041,700	922,100	119,600
事業収益	8,803,694	4,937,814	3,865,880
大会運営収入	4,025,000	3,863,000	162,000
学術小集会運営収入	4,315,694	959,014	3,356,680
学術・技術支援委員会収入	463,000	115,800	347,200
雑収益	1,128,199	130,660	997,539
預金利息	690	2,743	△ 2,053
雑収益	1,127,509	127,917	999,592
経常収益計	26,369,593	21,694,574	4,675,019
(2) 経常費用			
会報刊行費	9,275,392	7,723,242	1,552,150
旅費交通費	152,600	120,400	32,200
通信運搬費	3,710	8,782	△ 5,072
印刷製本費	6,862,527	5,783,408	1,079,119
編集費	1,365,871	1,180,885	184,986
学会誌送料	890,684	629,767	260,917
総会・大会費	1,128,734	3,777,187	△ 2,648,453
学術・技術支援委員会費	180,734	147,300	33,434
学術小集会費	3,371,104	945,934	2,425,170
HP管理費	919,550	875,550	44,000
学会賞関係費	355,784	468,134	△ 112,350
学術交流費	207,050	212,800	△ 5,750
農薬科学研究奨励金	1,000,000	1,500,000	△ 500,000
選挙関連費	0	220,000	△ 220,000
事業運営費	180,707	368,660	△ 187,953
会議費	61,207	48,960	12,247
旅費交通費	119,500	319,700	△ 200,200
管理費	4,145,162	3,986,634	158,528
旅費交通費	0	1,000	△ 1,000
通信運搬費	122,983	133,268	△ 10,285
消耗品費	26,829	147,141	△ 120,312
事務管理費	3,190,000	3,265,000	△ 75,000
減価償却費	218,533	10,450	208,083
外部会計監査費	154,274	154,274	0
雑費	432,543	275,501	157,042
経常費用計	20,764,217	20,225,441	538,776
評価損益等調整前当期経常増減額	5,605,376	1,469,133	4,136,243
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,605,376	1,469,133	4,136,243
2. 経常外増減の部			
経常外収益計	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	5,605,376	1,469,133	4,136,243
一般正味財産期首残高	38,386,874	36,917,741	1,469,133
一般正味財産期末残高	43,992,250	38,386,874	5,605,376
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
III 正味財産期末残高	43,992,250	38,386,874	5,605,376

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
積立調整基金口	12,224,379	0	0	12,224,379
国際学術交流基金	14,385,042	0	0	14,385,042
寄付基金口	6,264,117	1,000,000	0	7,264,117
合 計	32,873,538	1,000,000	0	33,873,538

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
積立調整基金口	12,224,379	(0)	(12,224,379)	(0)
国際学術交流基金	14,385,042	(0)	(14,385,042)	(0)
寄付基金口	7,264,117	(0)	(7,264,117)	(0)
合 計	33,873,538	(0)	(33,873,538)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期減少額	当期末残高
ソフトウェア(クレジット機能)	313,500	62,700	73,150	240,350
ソフトウェア(大会システム)	935,000	155,833	155,833	779,167
合 計	1,248,500	218,533	228,983	1,019,517

財産目録

令和3年12月31日現在

日本農業学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	金 額	
(流動資産)	現金	手元保管	121,180	
	預金	普通預金	11,659,198	
		三井住友銀行白山支店	6,794,505	
		PayPay銀行	3,490,164	
		SMBC信託銀行	1,374,529	
		振替貯金	2,377,092	
	未収金		491,301	
仮払金		14,294		
農薬		14,294		
流動資産合計			14,663,065	
(固定資産)	特定資産	積立調整基金	12,224,379	
		国際学術交流基金	三井住友銀行白山支店定期	12,224,379
			14,385,042	
		寄付基金	三井住友銀行白山支店定期	12,885,042
			PayPay銀行定期	1,500,000
	その他固定資産		7,264,117	
		三井住友銀行白山銀行定期	6,964,117	
		SMBC信託銀行	300,000	
		ソフトウェア	1,019,517	
		固定資産合計		
資産合計			49,556,120	
(流動負債)	未払金		132,000	
	前受金		5,217,000	
	正会員		5,156,000	
	学生会員		24,000	
	海外会員		30,000	
	団体会員		7,000	
	預り金		24,870	
	仮受金		190,000	
	流動負債合計			5,563,870
負債合計			5,563,870	
正味財産			43,992,250	

III 会計監査報告

令和3年度日本農業学会の事業報告および決算について監査の結果、的確であることを認めます。

令和4年2月1日

監事 佐藤 幸治 印
三富 正明 印

IV 議事

1. 令和3年度事業報告および決算の承認

2. 令和4年度事業計画および収支予算（案）の承認

1) 会誌の発行：日本農薬学会誌 第47巻，第1号～第2号 Journal of Pesticide Science (JPS) 誌 第47巻，第1号～第4号

2) 第47回大会の開催：R4.3.7～9，岡山大学（岡山市）に 大会実行組織委員会の本部をおくオンライン開催。

3) 日本農薬学会賞および論文賞の授与

4) 専門委員会などの開催

- (1) 編集委員会
- (2) 常任編集委員会
- (3) 日本農薬学会賞受賞者選考委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 第48回大会組織委員会
- (6) 将来計画委員会
- (7) 学術・技術支援委員会
- (8) 農薬科学研究奨励金交付者審査会議（一次および二次）
- (9) 選挙管理委員会

5) セミナーの開催

- (1) 残留農薬分析セミナー 2022を開催予定（開催方式，開催時期等の詳細未定）
- (2) 農薬の安全性等に関する講師派遣（予定）

6) 学術小集会，講演会等の開催

- (1) 農薬残留分析研究会：第45回農薬残留分析研究会をかがわ国際会議場（香川県高松市）において開催。（R4.11.24～25）
- (2) 農薬製剤・施用法研究会：第41回農薬製剤・施用法シンポジウム9月下旬に開催予定（開催方法および開催地未定）
- (3) 農薬環境科学研究会：第39回農薬環境科学研究会を岐阜市文化センター（岐阜県岐阜市）において開催。（R4.9.30～10.01）
- (4) 農薬生物活性研究会：第38回農薬生物活性研究会シンポジウムをオンライン開催。（R3.4.23）
- (5) 農薬デザイン研究会：第36回農薬デザイン研究会をオンライン開催予定。（R4.11.11）
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会：第29回シンポジウムを11月頃に開催。（開催方法および開催地未定）
- (7) 農薬バイオサイエンス研究会：第21回農薬バイオサイエンス研究会を岡山大学（岡山県岡山市）において開催。（第47回大会との共催，オンライン）（R4.3.9），第22回研究会を11月頃に開催予定。（開催方法および開催地未定）

7) 農薬科学研究奨励金の交付

- (1) 阿部 智早絵 氏（（株）化学分析コンサルタント）：農薬散布作業者の薬剤曝露評価および新規曝露評価手法の開発
- (2) 矢島 新 氏（東京農業大）：トウモロコシの自己防御機構解明を指向した合成化学的研究
- (3) 高橋 郁夫 氏（東京大）：植物の耐暑性を賦活化する低分子化合物の創製

8) 令和4年度収支予算（案）

収支予算書

令和4年1月1日から令和4年12月31日まで

(単位:円)

科 目	令和4年度年度予算案	令和3年度年度予算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会 費 収 入	16,171,000	15,573,000	598,000
正 会 員 会 費 収 入	8,500,000	7,544,000	956,000
学 生 会 員 会 費 収 入	100,000	112,000	△ 12,000
海 外 会 員 会 費 収 入	55,000	45,000	10,000
団 体 会 員 会 費 収 入	504,000	770,000	△ 266,000
購 読 会 員 会 費 収 入	112,000	202,000	△ 90,000
維 持 会 員 会 費 収 入	6,900,000	6,900,000	0
会 報 刊 行 収 入	860,000	767,000	93,000
頒 布 収 入	30,000	37,000	△ 7,000
広 告 料 収 入	30,000	30,000	0
著 者 負 担 金 収 入	800,000	700,000	100,000
事 業 収 入	16,980,000	20,270,000	△ 3,290,000
大 会 運 営 収 入	3,900,000	4,350,000	△ 450,000
学 術 小 集 会 運 営 収 入	12,580,000	15,100,000	△ 2,520,000
学 術 ・ 技 術 支 援 委 員 会 収 入	500,000	820,000	△ 320,000
雑 収 入	113,000	113,000	0
預 金 利 息 収 入	3,000	3,000	0
雑 収 入	110,000	110,000	0
事業活動収入計	34,124,000	36,723,000	△ 2,599,000
2. 事業活動支出			
会 報 刊 行 費 支 出	7,920,000	8,470,000	△ 550,000
旅 費 交 通 費 支 出	150,000	300,000	△ 150,000
通 信 運 搬 費 支 出	10,000	10,000	0
消 耗 品 費 支 出	10,000	10,000	0
印 刷 製 本 費 支 出	5,200,000	6,000,000	△ 800,000
編 集 費 支 出	1,900,000	1,500,000	400,000
学 会 誌 送 料 支 出	650,000	650,000	0
総 会 ・ 大 会 費 支 出	3,200,000	2,680,000	520,000
学 術 ・ 技 術 支 援 委 員 会 支 出	1,000,000	960,000	40,000
学 術 小 集 会 費 支 出	12,560,000	14,900,000	△ 2,340,000
H P 管 理 費 支 出	943,000	900,000	43,000
学 会 賞 関 係 費 支 出	205,000	500,000	△ 295,000
学 術 交 流 費 支 出	257,050	300,000	△ 42,950
国 際 学 術 交 流 費 支 出	1,000,000	1,000,000	0
農 業 科 学 研 究 奨 励 金 支 出	1,500,000	1,500,000	0
男 女 共 同 参 画 支 援 費	0	0	0
選 挙 管 理 費 支 出	220,000	0	220,000
事 業 運 営 費 支 出	1,000,000	1,600,000	△ 600,000
会 議 費 支 出	500,000	700,000	△ 200,000
旅 費 交 通 費 支 出	500,000	900,000	△ 400,000
管 理 費 支 出	4,200,000	4,150,000	50,000
旅 費 交 通 費 支 出	0	0	0
通 信 運 搬 費 支 出	250,000	300,000	△ 50,000
消 耗 品 費 支 出	150,000	150,000	0
事 務 管 理 費 支 出	3,190,000	3,190,000	0
印 刷 費 支 出	50,000	50,000	0
外 部 監 査 管 理 費	160,000	160,000	0
雑 支 出	400,000	300,000	100,000
事業活動支出計	34,005,050	36,960,000	△ 2,954,950
事業活動収支差額	118,950	△ 237,000	355,950
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特 定 資 産 取 崩 収 入	0	500,000	△ 500,000
積 立 調 整 金 取 崩 収 入	0	0	0
国 際 学 術 交 流 基 金 取 崩 収 入	0	0	0
寄 付 基 金 取 崩 収 入	0	500,000	△ 500,000
投資活動収入計	0	500,000	△ 500,000
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	500,000	△ 500,000
当期収支差額	118,950	263,000	△ 144,050
前期繰越収支差額	9,099,195	4,434,203	4,664,992
次期繰越収支差額	9,218,145	4,697,203	4,520,942

3. 日本農薬学会第48回大会（2023年）

第48回大会を2023年3月上旬に東京農業大学（東京都世田谷区）において開催する。

4. その他

役 員 (2021.4.1～2023.3.31)

会 長	塩月 孝博（島根大）	橋本 良子（東京都農林財団）	三谷 晃（日本曹達）
副 会 長	松田 一彦（近畿大）	佐藤 清（元 残農研）	田中 啓司（近畿大）
顧 問	内田又左衛門（緑安協）	三富 正明（法政大）	
監 事	佐藤 幸治（元 玉川大）	赤松 美紀（岡山大）	浅見 忠男（東京大）
評 議 員	青山 博昭（残農研）	新井 清司（三井化学アグロ）	有江 力（東京農工大）
	天野 昭子（日植防）	石原 亨（鳥取大）	石原 悟（農水省）
	飯島 和昭（残農研）	伊藤 晋作（東京農大）	稲生 圭哉（農研機構）
	一ノ瀬礼司	岩船 敬（農水消安セ）	上野 英二（愛知県衛生研）
	乾 秀之（神戸大）	大川 哲生（クミアイ化学）	太田 広人（崇城大）
	王 敬銘（秋田県大）	大山 和俊（残農研）	岡澤 敦司（大阪府大）
	大野 竜太（北興化学）	片木 敏行（住友化学）	片山 新太（名古屋大）
	尾松 正人（石原産業）	門岡 織江（住化テクノ）	河合 清（クミアイ化学）
	加藤 康仁（日本化薬）	木戸 庸裕（北興化学）	木村 幸夫（日本エコテック）
	北村 恭朗（国際農林協）	桑原 重文（東北大）	小林 正樹（日産化学）
	清田 洋正（岡山大）	小森 岳（住友化学）	斎藤 勲（東海コープ）
	小原 裕三（農研機構）	坂本 典保（広栄化学）	佐野 宏己（三井化学アグロ）
	坂 真智子（エスコ）	島本 文子（高知県農技セ）	清水 力（クミアイ化学）
	島村 裕二（化安研）	須戸 幹（滋賀県大）	巢山 弘介（島根大）
	謝 肖男（宇都宮大）	関野 景介（SDS バイオテック）	曾根信三郎（日植防）
	清家 伸康（農研機構）	高橋 宣好（OAT アグリオ）	滝川 浩郷（東京大）
	高木 和広（農研機構）	田村 廣人（名城大）	塚本 正満（石原産業）
	田中 千尋（京都大）	富澤 元博（東京農大）	富田 啓文（日本農薬）
	富ヶ原祥隆（住友化学）	仲下 英雄（福井県大）	中谷 昌央（クミアイ化学）
	中川 好秋（京都大）	永山 敏廣（明治薬科大）	夏目 雅裕（東京農工大）
	中村 英光（東京大）	西松 哲義（日本農薬）	西脇 寿（愛媛大）
	成田伊都美（埼玉県農研セ）	波多野連平（ニッソーフィールド）	濱口 洋（元 日本農薬）
	野下 浩二（秋田県大）	平井 憲次（相模中研）	平瀬 寒月（三井化学アグロ）
	日野 智和（日本農薬）	福地 俊樹（アグロカネショウ）	藤田 眞弘（全農）
	平田 晃一（日本曹達）	藤村 佳樹（バイエル）	星野 敏明（元 バイエル）
	藤村 真（東洋大）	松本 宏（筑波大）	丸 諭（化学分析コンサル）
	町谷 幸三（日本農薬）	水口智江可（名古屋大）	宮川 恒（京都大）
	三田 猛志（日産化学）	三芳 秀人（京都大）	村井 正俊（京都大）
	宮下 正弘（京都大）	元場 一彦（日本農薬）	森島 靖雄（シンジェンタ）
	望月 証（兵庫県農水総セ）	森山 裕充（東京農工大）	矢吹 芳教（大阪環農水総研）
	森本 正則（近畿大）	山内 聡（愛媛大）	山本 幸洋（千葉県農研セ）
	藪崎 隆（全農）	横田 篤宜（農薬工業会）	横山 昌雄（植調協会）
	與語 靖洋（植調協会）	渡邊 裕純（東京農工大）	
	米山 弘一（元 宇都宮大）		

常任評議員

総務担当： 中村 英光 水口智江可 村井 正俊 森山 裕充
財務担当： 富ヶ原祥隆 元場 一彦
編集担当： 伊藤 晋作 高木 和広
渉外・企画担当： 西脇 寿 平瀬 寒月 矢吹 芳教

名 誉 会 員

安部 浩 安藤 哲 上杉 康彦 梅津 憲治 大川 秀郎 佐々木 満 正野 俊夫
高橋 正三 谷口 栄二 中津川 勉 中村 幸二 西村勤一郎 深海 浩 前田 泰三
丸茂 晋吾 宮本 徹 山口 勇 山本 出 山本 廣基 米山 勝美 若林 攻

終 身 会 員

浅利 健二 安部八洲男 有田 浩之 飯田 格 石井 康雄 岩本 毅 内田又左衛門
白井 健二 上山 功夫 越中 俊夫 遠藤 武雄 大原 詔雄 岡田 至 利部 伸三
加藤 肇 金子 俊彦 川端 成彬 木村 俊夫 下松 明雄 倉橋 良雄 桑原 保正
小林 裕子 近内 誠登 斎藤 勲 佐藤 元昭 実光 穰 穴戸 孝 城島 輝臣
菅原 敏夫 杉山 浩 鈴木 敏雄 高山千代蔵 武居 三郎 竹内 安智 竹柴 英雄
竹田 勇 谷中 国昭 千野 義彦 辻 孝三 辻 英明 土屋 秀士 遠山 輝彦
富田 文夫 永江 祐治 成瀬 功 馬場 洋子 早川 充 林 眞守 堀 伸二郎
堀 正大 本田 博 牧野 孝宏 益子 道生 俣野 修身 松山 宣明 水谷 純也
本山 直樹 薬丸 薫 横山佐太正 吉田 茂男 米澤 泰治

令和4年度 第1回将来計画委員会議事録

日 時：2022年4月16日(土) 13:30～14:30

方 法：オンライン

出席者：6名

議事：

- ・農林水産省が推進する「みどりの食料システム戦略」を考慮して、農業デジタルテクノロジーの学術小集会の設立やその他の学術小集会の課題等の再考について検討した。
- ・植物保護科学関連学会が軒並み一般社団法人化している中で、日本農薬学会についても同様に一般社団法人化の必要性の有無について検討した。
- ・新規会員を獲得するために分野を拡大する必要性を検討するとともに、次世代育成のためにアメリカ化学会 AGRO 部門との交流方法について検討した。
- ・学術雑誌 Journal of Pesticide Science について他国と共同運営する可能性について検討した。
- ・50周年記念事業を念頭に、学術支援等を目的として、学会収支の繰越分を基金化することを提案した。

第213回常任編集委員会 議事録

日 時：2022年4月23日(土) 15:15～16:30

場 所：日本植物防疫協会地下1F会議室

出席者：11名

報告事項：

- 1) 2022年のJPSへの投稿、アクセス状況について
2022年1月～3月の投稿数、PDFアクセス数、被引用件数は昨年同様に順調に推移しているとの報告があった。被引用件数が増加していることから、2022年のIF（2022年7月上旬に決定予定）は1.7以上となることが期待されると説明された。

審議事項：

- 1) 和文誌の編集方針について

- ・和文誌の読み物は広く情報提供ができていたので、良いアイデアがあれば引き続き出していきたい、との意見が出された。これに対して、農薬の分野に限定せず、最新の科学トピックを読み物として掲載することが提案された。
- ・巻号の間で掲載記事数の差が大きくなるように配慮したいとのコメントがあり、引き続き検討することとした。
- ・英文での投稿が難しいような記事に対しても、和文誌

- への投稿を積極的に働きかけることを確認した。
- 2) JPSのIF向上に向けた取り組みについて
引き続き、総説（Review）記事の充実を図るという方針を確認した。
また、総説の投稿および編集状況について説明された。
- 3) その他：
①英文校正について
著者自身が投稿前に校正を済ませていた場合であっても、受理後に学会で二重に英文校正に出す必要があるかどうかについて議論し、著者校正済の投稿論文は原則として学会校正を省略する方向で検討することとした。
- ②学会ウェブサイトへの掲載について
学会ウェブサイト上に掲載されている、学会誌＞和文記事のリストが最近更新されていないことが指摘され、担当者に更新を依頼することとした。
- ③和文誌への掲載内容について
記事の見出しである「各地の生産現場から」の通し番号について、目次では番号が付いているものの記事の中では番号が抜けている箇所があったことが報告され、次号以降はきちんとチェックすることを確認した。

会 員 動 静

（令和3年11月16日～令和4年3月31日）

入会

正会員

橋本 寛大	郡嶋 浩志	大貫 晋平	松本 崇
竹田 遼	池谷 萌音	小林 修一	鈴木 佑典
櫻井 研吾	殷 熙洙	吉永 直子	田中 良樹
林 健太郎	貴田 健一	片岡 雅	東村 紀一
吉田 央	畑中 良太		

学生会員

石田 桃香	菊池 菜央	中道 隆哉	小寺 俊丞
園田 千紘	武藤 悠	佐伯 靖将	室賀邦太郎
杉坂 如水	西川 文太	三谷 尚大	小柳 瑞穂
藤林 悠希	北村 愛実	桑名 晶妃	岡本 和樹
上田 彩果			

購読会員

名古屋大学生協南部書籍（受付順）

退会

正会員

清水 寿明	渡部 哲夫	守屋 有香	濱村 洋
嶋中 一夫	富士 平和	藤平 欣孝	阿久津 優
早瀬 郁夫	伊藤 篤史	伊藤 整志	井藤 和人

戒能 洋一	川村 健	木下 勝敏	小高 理香
松本 正吾	根本 久	佐藤 正志	水光 正仁
宇垣 正志	鶴川 誠治	渡辺 克二	矢口 重治
岡本 憲一	長 洋子	馬場 康治	徳永恵津子
入江 真理	岡島 有規	矢口 直輝	釘屋 敦基
鈴木 俊広	矢野 楓	二木 邦浩	斉藤 隆起
藤田 里菜	小木曾真樹	小川 岳斗	太田 愛理
小原 仁美	内海與三郎	谷澤 貞幸	平木 真幸
濱田 祐介	鈴木倫太郎	崎田 遼	田中 創一
風間 春奈	アフレッドマフド	川上 翔大	濱田 祐史
二神加奈恵	下村 未紀	近藤 健	佐々木健太
馬場 敦志	正田 雄紀	谷山 恭彦	卯津羅萌音
中西 通隆	西野 友規	加藤 亮宏	胡 文倩
鈴木 和子	合田菜な未	逸見 信弥	増田 稔
福地 淳	間下大樹志	岩淵 博己	

学生会員

笹部保乃佳	岡本 一央	鏡 匠悟	岩城健太郎
宇野寛人	田口 泰輝	野村 洸司	坂崎 柁寿

海外会員

Kim, Kyung-Hyun	橋野 洋二
SAIN, Satish Kumar	PUSHPENDRA, Koli

団体会員

株式会社 ロイヤル・グリーン・メンテナンス
一般財団法人 食品環境検査協会 神戸事務所
高砂香料工業株式会社

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催、共催、協賛、後援する会議等

2022年

9月

29日(木)～30日(金) 第39回農薬環境科学研究会

主催：日本農薬学会、農薬環境科学研究会

会場：ホテルグランヴェール岐山〔〒500-8875 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通6丁目14番地〕

エクスカーション：未定

10月

14日(金) 第41回農薬製剤・施用法シンポジウム

主催：日本農薬学会、農薬製剤・施用法研究会

開催：オンライン（Webex）

11月

11日(金) 第36回農薬デザイン研究会

主催：日本農薬学会、農薬デザイン研究会

開催：オンライン

URL : <http://pssj2.jp/committee/design.html>



24日(木)～25日(金) 第45回農薬残留分析研究会

主催：日本農薬学会、農薬残留分析研究会

会場：かがわ国際会議場 [〒760-0019 香川県高松市サンポート2番1号 高松シンボルタワー 6F (タワー棟)]

情報交換会：未定

エクスカージョン：計画中

URL : <http://pssj2.jp/committee/residue.html>



(日付未定) 第22回農薬バイオサイエンス研究会

主催：日本農薬学会、農薬バイオサイエンス研究会

※詳細未定

2023年

3月

8日(水)～10日(金) 日本農薬学会第48回大会

主催：日本農薬学会

会場：東京農業大学世田谷キャンパス [〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1]

※詳細未定

学会主催会議等の詳細

第41回農薬製剤・施用法シンポジウム 開催案内

〈開催形式・日程変更のお知らせ〉

静岡での開催を予定しておりましたが、第41回農薬製剤・施用法シンポジウムは、新型コロナの感染収束が見通せない状況を鑑み、開催形式をオンラインに変更させていただきます。また、開催日も変更になりますので、ご確認をお願いします。プログラム、参加方法は後日、ホームページにてご連絡いたします。

第36回農薬デザイン研究会 開催案内

主 催：日本農薬学会、農薬デザイン研究会

日 時：令和4年11月11日(金) 10:00～19:30

場 所：オンライン

参加費：一般会員（非会員）5,000円（10,000円）、公的機関（非会員）4,000円（8,000円）、学生（非会員）1,000円（3,000円）

プログラム（仮）：『ニューノーマル時代における農薬デザイン』

※講演タイトルには変更の可能性がございます。

1. 「ラジカル制御型有機触媒」大宮寛久（京都大学）
2. 「Axceleadの挑戦～日本発創薬ソリューションプロバイダーとして～」池浦義典（Axcelead Drug Discovery Partners（株））
3. 「ラジカル反応の活用による複雑分子構築の単純化」井上将行（東京大学）
4. 「新規殺菌剤キノプロール®の創製」稲垣 準（日本曹達（株））
5. ポスター発表
6. 懇親会、ポスター賞表彰式

※本年度の参加受付（原則事前申込）は6月開始予定です。ウェブサイト（<http://pssj2.jp/committee/design.html>）を御覧ください。

第45回農薬残留分析研究会 開催案内

※本年度は、昨年と同様のハイブリット開催です。

主催：日本農薬学会、農薬残留分析研究会

日時：令和4年11月24日(木)～11月25日(金)

場所：かがわ国際会議場（高松シンボルタワー 6F）

URL : <http://www.sunport.or.jp>

対面参加数：上限150名

令和4年11月24日13:00～17:00：

テーマ「知っておきたい農薬のマルチ分析」（講演者4名を予定）

特別講演：香川県農業試験場

ポスター発表 ※昨年実施した口頭発表は行いません。原則、現地でのポスター発表のみとします。

令和4年11月25日9:00～12:00：

ポスター発表

企業セミナー「残留農薬分析におけるお役立ち情報（HPの活用方法等）」（仮）

12:00～17:00 エクスカージョン 計画中（参加人数30名限定）

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内

日本農薬学会では、精度の高い残留農薬分析を実施する上で特に配慮すべき事項を「Q & A」形式に取りまとめた「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版しています。2003年に初版を発行以来、好評を博して改訂を重ね、現在最新版が改訂4版となっております。改訂4版では、前3版出版以降の農薬登録制度の動向を反映させ、最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで、初学者の方にも、より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理しました。また、携行性を高めるために軽量化を図りました。前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として、さらに、食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても、農薬の規制についての理解の一助となるようお役立て頂けると幸いです。定価は3,000円です（送料別）。

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて、以下の日本農薬学会事務局に氏名、所属、メールアドレス、電話番号、送付先住所、購入冊数（FAX申込みの場合はFAX番号）等をご連絡下さい。また、メール等の件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい。折り返し請求書（送料を含む）を同封し発送しますので、振込みをお願いします。詳細は、学会ホームページもご参照ください。

日本農薬学会事務局：

〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号 日本植物防疫協会内

FAX: 03-5980-0282

MAIL: nouyaku@pssj2.jp

学会HP: http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html

※平成30年の農薬取締法改正に伴い更新が必要となった記事を新旧対照表として取りまとめました。学会ホームページ上（http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html）で公開していますので、ご参照ください。



「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内

日本農薬学会は学会ウェブサイト内に「農薬について知ろう」というサイトを開設しています。このサイトでは、農薬に関する理解を助けるため行政や公的機関などの情報を中心に紹介しています。

食品の安全に対する関心が高い中、家庭や学校など日常生活の中で農薬が話題となる機会も多いですが、関連する情報は散在しており、知りたい情報にたどり着くのに苦労することも少なくありません。そこで農薬のことを十分に理解するための多方面の情報を一元的かつ簡単に検索でき、食の安全や健康影響、環境影響などを考える際に利用できるポータルサイトとして運営しています。

このサイトでは、情報を必要としている方々に応じて小学生、一般の方、先生、農業・流通業関係者の4つのグループに分けて情報が整理されています。また、小学生向けには漢字にルビを振るとともに、分かりやすい情報サイトを選び紹介しています。さらに、情報は「規制」、「安全性」、「薬剤」、「環境・残留」、「農業」のカテゴリー別に分類されています。「規制」は農薬の登録や管理に係る法律、試験方法、農薬残留基準、食品の輸出入など、「安全性」は毒性、安全性、健康影響、リスク評価やリスク管理の考え方、「薬剤」は農薬の種類や特徴、農薬の使用方法、「環境・残留」は農薬の残留、環境中の分解、環境生物への影響など、「農業」は効果、薬害、防除、農法などについて整理されています。また、キーワードからカテゴリーごと、あるいは、50音別・アルファベット順別に縦横に検索できる機能も備えています。農薬に直接関わらない子供たちや一般の方々に向けてだけでなく、農薬や農業の専門家の方々にも十分役立つような情報を収録する工夫がされています。

今後も新しい規制や技術、知見など収録情報の追加や更新を継続していきます。皆様にご活用いただけますようお願いいたします。

日本農薬学会のトップページや下記のアドレスからご覧ください。

<http://pssj2.jp/rikai/index.shtml>



講師派遣のご案内

日本農薬学会では、一般市民や農業、教育関係の方々に農薬に関する知識や理解を深めていただくことを目的として、専門家を講師として派遣しています。派遣講師が行う講義の内容は、食料生産、作物保護、食品安全、環境影響、薬剤抵抗性、農薬製剤・施用法、農薬をめぐる諸問題等、ご要望にできる限り沿うようにしたいと考えておりますので、遠慮なくご相談ください。本活動にご興味がありましたら、学会ホームページ (http://pssj2.jp/overview/semina/haken_16.html) をご参照のうえ、日本農薬学会事務局にご連絡ください。



【予告】農薬科学研究奨励金のご案内

日本農薬学会では、農薬科学研究の支援を目的として、特に競争的資金の獲得が難しい研究課題や研究者の方々にも利用して頂けるよう、農薬科学研究奨励金の交付を行っています。今年度は令和5年度交付分の募集を9～11月に予定していますので、応募をお考えの皆様には是非前もってご準備下さい。詳細な応募要件等は、後日正式に決定次第、ご案内いたします。過去の採択課題：http://pssj2.jp/inside/past_grant.html



令和5・6年度日本農薬学会役員選挙について

令和4年10月に令和5・6年度日本農薬学会役員選挙が実施される予定です。詳細につきましては、選挙管理委員会発足後に、メールまたは郵便にてご連絡致します。また、次号ニュースレター（8月20日発行予定）でもお知らせ致します。なお、本会規定により、本年5月31日の時点で今年度の会費を納入していない方には選挙権・被選挙権が認められませんので、会費を払われていない会員の皆様には会費納入を5月末までに済ませて下さいますようお願い致します。

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

FAX: 03 (5980) 0282

E-mail: nouyaku@pssj2.jp